

令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 中間支援振り返りシート（2025.3）

活動団体の活動におけるテーマ

『地域循環共生のための森林アクションプランの作成と関係者協議』

活動団体の活動地域：愛媛県久万高原町

活動団体名：愛媛大学・(株)林業商社天空の森

中間支援主体名：久万高原町

活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

町の林地残材を使ったエネルギー生産、森林利用に関するアクションプランが実行され、2030年には、脱炭素、生態系保全、防災対策のための費用対効果の高いサステナブルで先端的な森林経営が始まっている。木質バイオマスエネルギー事業、森林のグリーンインフラ事業、森林エコツアーなど森林を利用した観光業が始められている。2050年には、町内の広葉樹が増えるなどにより、森林生態系や景観の改善が進み、地域への観光・エコツアーがさらに広がっている。

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

ローカルSDGs事業として取り組む内容

森林アクションプランは、町の森林利用の方向性を示す内容であるため、町内関係者の合意が必要である。特に、プランの内容に実質性を与えるためには林業関係者がこのプロセスに参加することが欠かせない。このため、林業者や林家がなるべく参加する体制や仕組みが必要である。

- (株)林業商社天空の森と愛媛大学とで、久万高原町の木質バイオマス資源の安定的な供給や防災力の向上、生態系改善に繋がる森林ゾーニングに向けたアクションプランを作成する。
- 木質バイオマスエネルギー事業、森林のグリーンインフラ事業、森林エコツアーなどの事業創生を目指す。

地域の現状

久万高原町は脱炭素による地域課題の解決のために、木質バイオマスエネルギーを含めた再生可能エネルギーの導入を検討している。木質バイオマスエネルギー事業では、林地残材を使うが、その安定供給と持続的な森林利用、さらには、町の新事業の創生や環境サステナビリティ向上のための長期的な森林アクションプランを検討している。

2026年度末の状態目標

- ・ 森林アクションプラン検討に向けた情報の整理・統合
- ・ 事業モデル提案、経済インパクト（仮）検討

2025年度末の状態目標

- ・ 仲間を探す
- ・ 森林アクションプラン検討に向けた情報収集

2024年度末の状態目標

- ・ ワークショップや協議会の開催
- ・ 地域課題や資源を発掘する
- ・ 地域の人話を聞き仲間をつくる
- ・ 森林アクションプランに向けた情報収集
- ・ 地域のビジョンを描く（マンダラ作成）

■見立て

久万高原町は林業を主産業として栄えたまちであり、豊富な森林資源（総土地面積の約9割）と素材生産量（県の45%）を誇り、林地残材を活用した木質エネルギー事業が期待されている。また、当該事業を契機とした新事業の創生も目指したい。このため、林業、脱炭素、生態系保全、防災対策を総合的に考慮した森林アクションプランの作成を計画している。

活動団体は、ワークショップの開催やアクションプラン作成に必要なエビデンスの分析を行うが、当該ワークショップの開催時の支援や、多様なエビデンス情報の収集、現地の個別背景の理解が必要であり、中間支援が必要である。

■打ち手

現地ワークショップの開催に関して、会議室などを提供したり、参加者を紹介したり、参加者への広報活動を行ったりするなどの中間支援を予定している。

また、町が有する林業、脱炭素、生態系保全、防災対策に関するエビデンス情報や、林業政策、脱炭素政策、生態系保全政策、災害政策に関する最新情報を活動団体にレクチャーする予定である。さらに、現地の個別背景の理解のために、治山事業の実施地域や皆伐の現地視察での随行、（必要に応じて）森林資源の計測のアレンジや随行、個別知識や背景を知る人材の紹介や背景知識の収集の補助などの中間支援を予定している。

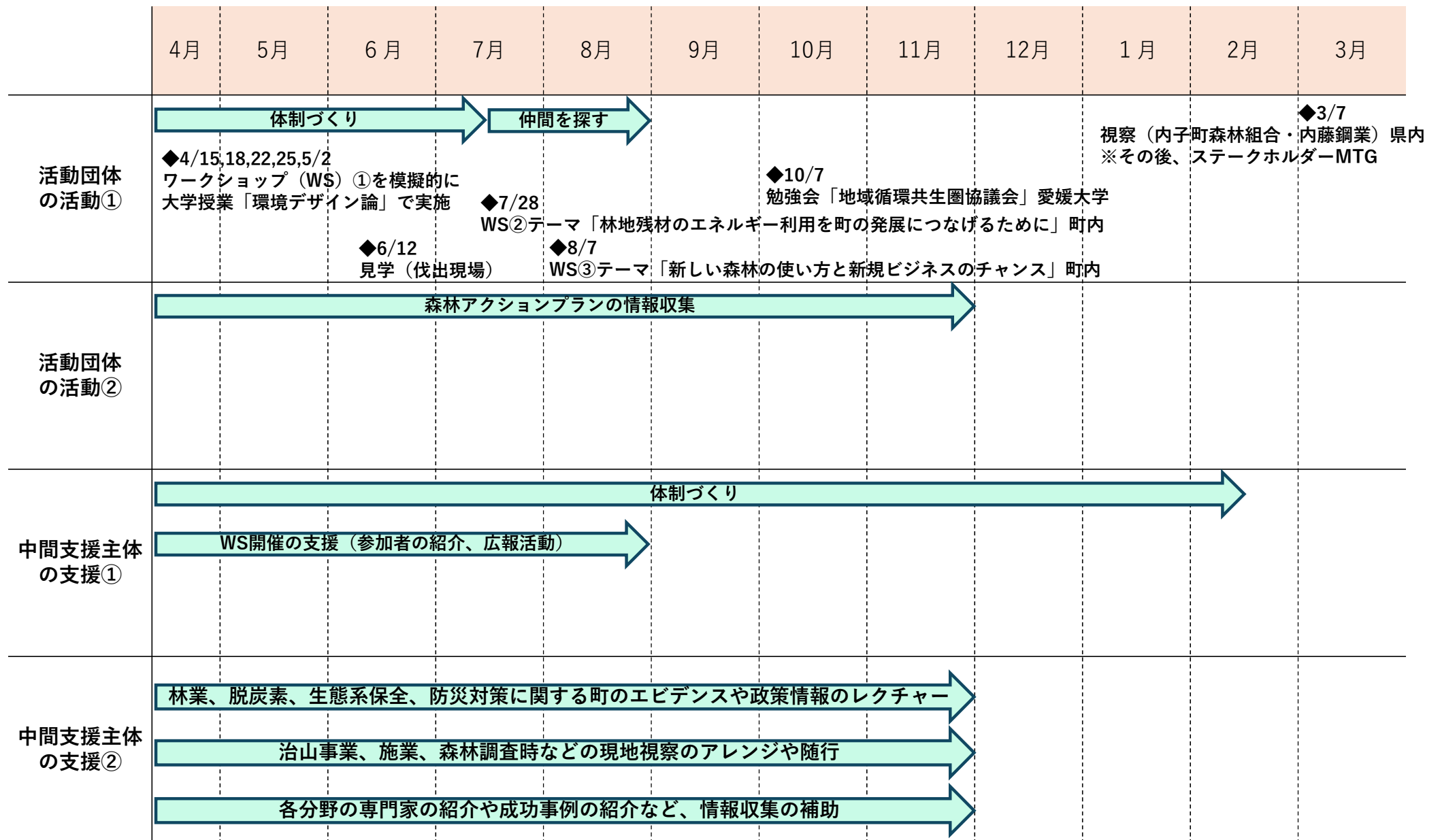
■中間支援機能の強化・振り返り

林地残材を活用した持続的な木質バイオマスエネルギー事業や、当該事業を契機としたサステナブルな森林整備を通じた新規の森林関連事業の創生を目指して、可能な限り実行力のある森林アクションプランを計画したい。

このため、地方支援事務局には、林業政策のみならず、脱炭素政策、生態系保全政策、災害政策に関する最新情報や、新しい林業のあり方、森林の脱炭素、生態系保全、防災対策に関する他地域での成功事例をご紹介頂いたり、成功体験を持つ人材を派遣して頂いたりすることを期待する。

活動・支援のプロセスの振り返り

■R6年度活動・支援内容



活動・支援のプロセスの振り返り

■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル①

WS②テーマ「林地残材のエネルギー利用を町の発展につなげるために」 町内

中間支援主体の支援

- **上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て**

活動団体の意思を尊重し、実施時期、内容、対象者などの整理をすることが重要だと考えていた。

- **具体的な支援内容（打ち手）**

活動団体が2者あり、当初は中継をする形で関係性の構築を目指した。

- **打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）**

当初は活動団体1者が主体であったが、その後、もう1社の直接的な参画を得るに繋がった。

- **中間支援主体としての気づき・成長**

支援と言うのは後方から見守るというよりも、中間支援主体自身も主体性を持って参画することが肝要だと認識した。

活動団体の取組

- **活動名・時期**

WS②テーマ「林地残材のエネルギー利用を町の発展につなげるために」 町内

7/28

- **なぜそれを実施したのか（実施目的）**

共生圏事業に取り組み始めて初の林業関係者がそろそろ場づくりとなった。事業に取り組む趣旨を共有し、情報交換の場づくりともなった。

- **実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）**

実質のステークホルダーミーティングとも言えるほど主要な林業関係者が揃い、その関心の高さに活動団体も事業に取り組む意義を再認識できた。

活動・支援のプロセスの振り返り

■今年度、地域循環共生圏づくりのポイントとして注力したアクションサイクル①

勉強会「地域循環共生圏協議会」愛媛大学
視察（内子町森林組合・内藤鋼業）県内

中間支援主体の支援

● 上記アクションサイクルの取組を活動団体が進めるにあたっての見立て

活動団体2者それぞれの人脈を活かし、相互の交流を生むことが重要と考えた。

● 具体的な支援内容（打ち手）

活動団体と地方支援事務局：四国EPOとの相中に立ち、取り次ぎ、連絡調整を行った。

● 打ち手による活動団体の変化（意識・行動・活動の進捗）

活動団体と中間支援主体との一体感が増した。

● 中間支援主体としての気づき・成長

あくまで支援が主となるが、立ち位置をわきまえ見誤らないようにする必要はあるが、中間支援主体も活動の一環に積極的に関与することは関係性の向上に繋がると実感した。

活動団体の取組

● 活動名・時期

10/7勉強会「地域循環共生圏協議会」愛媛大学

3/7視察（内子町森林組合・内藤鋼業）県内

● なぜそれを実施したのか（実施目的）

できるだけ多くの分野人材と関わることに仲間をつくることに繋がるため。

● 実施したことによって共生圏づくりにどのような変化が起きたか（活動団体自身の変化・周囲の変化等の共生圏づくりに関わる進捗）

実際に勉強会で出会った内藤鋼業へ、地方支援事務局：四国EPOの協力を得ながら、視察に伺うことに繋がった。

活動・支援のプロセスの振り返り

- （特に前2スライドの支援を実施するにあたり、）今年度、力を入れて取り組んだ中間支援は？（中間支援機能チェックリスト.xlsxより上位3つを選んで記入）

協働ガバナンスの項目	中間支援機能	項目（番号）	支援をしたタイミング等
運営制度の設計	プロセス支援	（2）①	WS②の開催にあたって関係者の取り次ぎを行った。
チェンジ・エージェント機能	資源連結機能	（1）①	開示できる最大限の情報データ提供を随時行った。
チェンジ・エージェント機能	問題解決提示機能	（1）④	視察等の実施を主体的に調整した。

● 共生圏づくりを進めるために、活動団体の能力をどう引き出せたか

活動団体2者のいずれも共生圏事業は初めてであり、かつ活動団体同士の取り組みも初めてであったため、相互の関係性の構築に重点を置き、期間が経つにつれ、直接のやり取りにも発展を見せた部分があった。

● 中間支援主体として向上したと思う中間支援機能

名のとおり活動団体が活動をするだけでなく、活動の一端に中間支援主体が参画することでより活動が促される状況に立ち会えた。

● R6課題だと感じたこと

整理事業当初であったため、仲間を増やすことに重きを置いており、離合集散を繰り返す中で、落ち着いた体制づくりに繋がるまでに月日を費やしてしまった。

地域循環共生圏づくりに向けた次のアクション

- 地域循環共生圏づくりのために、どのような中間支援機能を発揮できるか。R7～中間支援主体として今後どのようなになりたいか。

活動団体に主体性があることは当然のことだが、一方で中間支援主体が受動的であるべきでもなく、同様に主体性を持って、積極的に関わっていく姿勢を常に持ち共に試行錯誤していくようでありたい。

- 活動団体がアクションサイクルを回せるようにするための次年度の見立て・打ち手（具体的な支援策）

活動団体が2者あり、協働して取り組む部分も必要だが、それぞれの得手を活かし、同じ目標を見据えながら、それぞれで活動に取り組む場面も必要であるように感じた。

- 地方・全国事務局にサポートしてもらえると嬉しいこと

広大な知見地縁から、ヒト、モノの資源の情報提供やお取り次ぎをいただけると有り難い。
ケースバイケースで千差万別とは承知も、中間支援の具体的なメソッドやノウハウについて個別指導をいただけると有り難い。